



元気いっぱい、笑顔いっぱい、活力みなぎる 朝二の子

朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL 048-461-0042 FAX 048-467-4735
E-mail 2shou@asaka-c.ed.jp ホームページ <http://www.asakadai2shou.city-asaka.ed.jp>
令和3年1月6日〈1月号〉 児童数 702名 (1/4現在)



新しい年の幕開けにあたって

- 「和の心」を育む -

校長 谷井 喜信

令和3年(2021年)、辛丑。明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2学期の終業式(校内ビデオ放送)に「日本の正月遊びを楽しみましょう、夢を持ち続けましょう」と子供達に話しましたが、ご家族お揃いで輝かしい新春を迎えられたことと存じます。

さて、相田みつを氏の作品集の中に『ふっても てっても ^{にちにちこれこうにち} 日は好日 泣いてもわらっても きょうが 一番いい日 わたしの一生の中の 大事な一日だから』という詩があります。つつい自分の都合のよいように考えたり甘い方に流されたりしてしまいがちな私ですが、今年の干支である丑年にちなみ、一日一日、一步一步を大切にしながら生活する、そんな一年にしたいと思えます。今年も皆様方のご支援・ご協力をよろしく願いいたします。



【新春の富士(南校舎より)】

本校では、「進んで学習する子(知)、仲良く助け合う子(徳)、健康で明るい子(体)」を学校の教育目標に掲げています。子供が望ましい人間として成長し社会の中で適応しながら生活するには知・徳・体の調和のとれた発達が重要です。乳児期・幼児期は誰もが「健やかに大きく育てほしい」と願っています。ところが児童期位になると、知育だけに重きをおいた子育てが中心になってしまう傾向が見られがちです。子供の成長にとって大切な「人間らしい心」は温かな触れ合いを通して育ちます。家庭・学校・地域社会の大勢の人々と関わる中で、思いやりを持ち協力し合い感謝し合う、「和の心」を大切に育てなければと思います。そこで、江戸の知恵(子育てしぐさの教え)を紹介します。

「^{しつけ}三つ心、^{ふみ}六つ躰、^{ことわり}九つ言葉、^{すえ}十二文、十五理で未決まる」 江戸の知恵(子育てしぐさの教え)

人を教える、人を育てる。あらゆる人が悩み、必ずぶつかる壁です。(中略)それは昔から同じようで、江戸時代に「子育てしぐさ」という丁稚の小僧を優秀な商人に育てるためのマニュアルがありました。

最初の「**三つ心**」とは、3歳までに心の豊かさを教えなさいということ。人間は、生まれた時には心と体が繋がっていません。だから一日一日、心の豊かさや感性を磨いてあげて、心と体の糸を繋いであげる。すると、3年で千本以上の糸ができます。それだけの束になれば、もう糸はきれません。豊かな心に従った善い行い、感情豊かな表情のできる子が育つ。そんな考え方です。

次に「**六つ躰**」とは、6歳までに躰をしなさいということ。躰とはトレーニングのことで、「挨拶をしなさい」「席を譲りなさい」「お礼を言いなさい」といったことを教え込み、実践させるのです。

「**九つ言葉**」というのは、9歳までに世辞が言えるようにしなさいということ。世辞は現代で言うところのお世辞とは違います。世辞とは、たとえば「何々さん、こんにちは。今日はお暑いですね」などの挨拶に、「お体は大丈夫ですか？」など、相手を慮る言葉を付け加えるということです。昔は9歳で丁稚奉公に出されたから、挨拶が言えるのは当たり前でした。そこでさらに世辞、つまり相手への気づかいを表現できてはじめて「よくできた子だ」とひいきにしてもらえたのです。

「**十二文**」とは、12歳までに文章を書けるようにしなさいということ。挨拶状、お礼状、お詫び状、それぞれ季節のご挨拶を入れて、きちんと書けることが理想でした。12歳ともなれば、ほとんど小さい大人として扱われたからです。

そして、「**十五理で決まる**」とは、15歳までに世の中の理、森羅万象を理解させなさいということ。昔は15歳で元服、もう一人前の大人でした。最後の教えとして理を説いて、子どもを独り立ちさせるのです。15歳にもなれば、あとは親の責任ではなく、その子自身の人生だと了解されていたのです。

「**心、躰、言葉、文、理**」。大事なのはこの順番です。心を教える前に躰をしてはいけません。どんな分野でも、「職人」「達人」と呼ばれる人たちは、何十年のキャリアを積んでいても、基本に忠実に立ち返る厳しさがあります。ぶれない「心」を持っているのです。しかし心がないと、仕事に慣れてマンネリ化してきた時、どんどんと自己流の解釈に走ります。そして、どんどん基本から遠のいていきます。
〔上田比呂志(うへだ・ひろし)著 日本人にしかできない「気づかい」の習慣より〕

いよいよ3学期。6年生にとっては小学校生活のまとめと卒業・進学に向けた準備、1年生から5年生にとっては進級への橋渡しとなる大切な学期です。政府は緊急事態宣言再発令を検討中ですが、春の新芽が伸びるように、子供達一人一人が一步一步前進する充実した学期になればと願っています。